

\*\*2011年7月改訂(第5版)

\*2009年9月改訂(第4版、販売名変更に伴う改訂)

貯 法: 室温保存

開栓後は汚染防止のため、清潔に取り扱うこと

使用期限: ラベル、外箱に表示

日本標準商品分類番号

8 7 1 3 2 4

* 承認番号	22100AMX01505000
* 薬価収載	2009年9月
販売開始	1960年9月

## 局所血管収縮剤

# \* テトラヒドロゾリン 鼻用スプレー0.1%「ミナト」

Tetrahydrozoline Nazal Spray 0.1%「Minato」

塩酸テトラヒドロゾリン液

### 【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 2歳未満の幼児・乳児 [全身症状が起こりやすい。]
3. モノアミン酸化酵素阻害剤を投与中の患者 [急激な血圧上昇を起こすおそれがある。]

### \*\*【組成・性状】

販売名	テトラヒドロゾリン鼻用スプレー0.1%「ミナト」
成分・含量 (100mL中)	塩酸テトラヒドロゾリン 100mg
添加物	ベンゼトニウム塩化物 5mg
性状	本剤は無色透明な液体で、においはなく、強く振ると泡立つ
pH	6.4±1.6

### 【効能・効果】

上気道の諸疾患の充血・うっ血

### \*\*【用法・用量】

本剤は原則として6歳以上の小児及び成人に用いる。  
通常、成人3～5時間毎に2～3回鼻腔内に噴霧するか、又は2～4滴を鼻腔内に点鼻する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

#### 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)冠動脈疾患のある患者 [血管を収縮して冠動脈疾患を増悪させるおそれがある。]
- (2)高血圧症の患者 [末梢血管を収縮して血圧を上昇させるおそれがある。]
- (3)甲状腺機能亢進症の患者 [甲状腺機能亢進症の患者は交感神経が興奮状態にあることが多い。]
- (4)糖尿病の患者 [肝臓のグリコーゲンを分解して血糖を上昇させる作用がある。]

#### 2. 重要な基本的注意

連用又は頻回使用により反応性の低下や局所粘膜の二次充血を起こすことがあるので、急性充血期に限りて使用するか又は適切な休薬期間をおいて使用すること。

### 3. 相互作用

併用禁忌 [併用しないこと]

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
モノアミン酸化酵素阻害剤	急激な血圧上昇を起こすおそれがある。	MAO阻害剤はカテコールアミンの蓄積をおこし、本剤の交感神経刺激作用を増強するおそれがある。

### 4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。(再審査対象外)

以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症 <sup>注)</sup>	過敏症状
精神神経系	傾眠、頭痛、めまい、振戦、不眠症、脱力感等
循環器	血圧上昇、心悸亢進、不整脈等
鼻	熱感、刺激痛、乾燥感、反応性充血、鼻漏等
長期使用	反応性の低下等

注) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

### 5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ使用すること。[妊婦に対する安全性は確立していない。]

### 6. 小児等への投与

- (1)過量投与により、発汗、徐脈、昏睡等の全身症状があらわれやすいので、使用しないことが望ましい。
- (2)やむを得ず使用する場合には、使用法を正しく指導し、経過の観察を十分に行うこと。

### 7. 適用上の注意

眼科用として使用しないこと。

### 【薬効薬理】

1. 直接局所粘膜に適用すれば粘膜の充血、腫脹を除去する。
2. 血圧上昇作用はエピネフリンと類似であり、作用の発現はエピネフリンより遅い。
3. テトラヒドロゾリンはナファゾリンの約5.9倍、フェニレフリンの約5.6倍と同等の効力を示す。

### \*【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：塩酸テトラヒドロゾリン

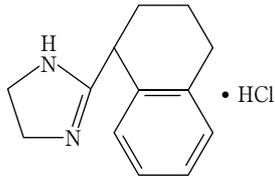
(Tetrahydrozoline Hydrochloride)

化学名：2-(1,2,3,4-tetrahydro-1-naphthyl)-2-imidazoline hydrochloride

分子式：C<sub>13</sub>H<sub>16</sub>N<sub>2</sub> · HCl

分子量：236.74

構造式：



性状：本品は白色～淡黄色の結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。

本品は水、メタノール又はエタノールに溶けやすく、氷酢酸にやや溶けやすく、無水酢酸、アセトン、酢酸エチル又はエーテルにほとんど溶けない。

本品の水溶液（1→10）のpHは4.5～6.5である。

融点：約256℃（分解）

### 【包装】

500mL

### 【文献請求先】

原沢製薬工業株式会社 開発本部

〒108-0074 東京都港区高輪三丁目19番17号

\* 発売元



ミナト製薬株式会社  
東京都中央区銀座1丁目14番11号

\* 製造販売元



原沢製薬工業株式会社  
東京都港区高輪三丁目19番17号